

# 伝わるのは、言葉ではなく、「気持ち」

TBS系TV「王様のブランチ」で多くの本を紹介してきた筑摩書房顧問の松田哲夫さん。同番組のなかで、編集者と読者の意識の違いに気づいたという。読まれるにはどんなコピーを打ち出すべきか。ベストセラーの帯コピーも手がけた松田さんの技と心得に迫る。



**松田哲夫さん**  
筑摩書房 顧問

1970年、アルバイトを経て筑摩書房に入社。これまでに約400冊の本の企画編集を手がけることから、TBS系TV「王様のブランチ」で書籍を紹介を12年以上務める。その鋭い観点には視聴者からの支持も厚い。共著も含め、「印刷に忠実」「日本に忠実」など著作も多数。

本当に伝えたい感動は最高に響く切り札で

「涙！涙！！涙!!!」今年読んだ最も感動的な小説だ。ぼくはベスト1に決めました！」。筑摩書房顧問の松田哲夫さんが、重松清著「その日の前に」（文藝春秋）を紹介するときに使ったコピーだ。同書を取り上げたのは、レギュラー出演番組の「王様のブランチ」（TBS系）。ベストセラーとなるきっかけとなったこの紹介文には、松田さんのこの作品への深い感動が込められている。

「TVで語る言葉というものは、実は届きにくい。でも、気持ちは伝わるんですね。言葉は届きにくいけれど、それでも届くキーワードはあるんです。「涙」や「泣く」という言葉や、「1位」「ベスト1」などの評価がそれです。自分が抱いた感動を強力に伝えたいので、「その日の前に」には、これらの強い切り札をあえて2つ使いました」。

放送直後、番組が流れた地域の書店から同書は消えた。その後、帯には松田さんの紹介文が採用される。

こうした切り札を使うほかにも、コピーを目立たせ、購買層に届かせる方法がある。



1 「老人力」  
赤瀬川 原平 著 筑摩書房  
1,575円（税込）



とぼなんだろう  
「？」

41万部の大ヒット。実は、帯に関して松田さんは何もなかった。装丁を手がけた南伸坊さんに「ついでに帯コピーも」と丸投げした結果、こういう帯になったという。「タイトル自体の認知度がすでに高まっていたので、それが生きる形になりましたね。「え、知らないの?」とても思わせりやうな。」（松田さん）。



「老人力」のヒットを受けて、改題した帯。「？」を「!」に変えた。読者の声を載せたことで、購買意欲をかきたてる効果も。

## タイトルから目線を 変えて考える

松田さんは、情報バラエティ番組で自らのコーナーを持つ中、視聴者側はそれほど真剣にテレビを観ていない、情報は受け止められず流されていることを感じるといふ。同じように、作り手側がどんなにコピーや装丁に趣向を凝らした本でも、人々にとっては無数の本のうちの1冊。じっくり見られることなく視線は横へと移されてしまう。

その中で視線を留まらせるためには当然目立つ仕掛けが必要となってくる。「30秒でできる〜」などまるでコピーそのもののようなタイトルが書店の棚に並ぶ昨今、帯の役割が改めて問われる。タイトルにある言葉を繰り返すようなコピーでは目立たないし、そもそも帯コピーの意味がないと松田さん。

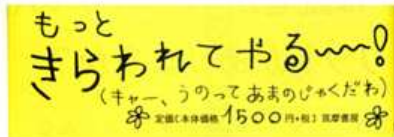
「例えば『環境問題のウソ』（池田清彦著・筑摩書房）だったら『京都議定書を守るニッポンはバカである!』というコピーでインパクトをつけました。『環境問題の本質とは?』などという同じ言葉の繰り返しのコピーでは、まったく興味を引くことができないからです」。

## 「もっときらわれてやる〜!」

タレント・神田うのさんの本。出版された10年前当時、彼女が「嫌いなタレントNO.1」に選ばれていたことを逆手にとった。「あえてここまで挑発的にしたら、嫌いな人でも逆に手に取るかもしれないと思いました。特に、ファンではない人の目にも留まるかなど」（松田さん）。著者そのものを打ち出す形のコピーだ。



2 「神田うの」  
神田うの 著 筑摩書房 1,575円



## 「その日の前に」

重松 清 著 文藝春秋 1,500円（税込）



TBS系TV「王様のブランチ」(毎週土曜13:30-14:00放送)で大絶賛  
涙! 涙!! 涙!!!  
今年読んだ最も感動的な小説だ。  
ぼくはベスト1に決めました! 松田哲夫

昨日までのぼくは、「印刷に忠実」だった。それが今年読んだこの本で、心から感動した。感動を伝えるには、感動を伝える必要がある。感動を伝えるには、感動を伝える必要がある。

## 帯コピーは ラブレターと同じ

松田さんは、気持ちを伝え、自分に向いてもらうようにする点でコピーはラブレターに似ているという。「でも、「好き〜!」というアピールが強すぎるコピーは、ストーカーのようでうっとうしい。押し言葉も必要だけど、一歩引くのも大事でしょう。引く、というのは、その分、相手を引き込む、ということなんです。だから本当に効くのは、その本を冷静に見据えた、控えめな言葉だったりするんですよ」。

松田さんは内容をしっかり理解しながら使われているキーワードや印象的な言葉を拾ってあげれば、コピーのヒントは必ず得られるという。

「編集者が内容をちゃんと掴めているかどうかが、著者に対する責任でもありますよね。しかし、読んだ時の気持ちをうまく言葉にできれば「自分分はこう受け止めた」という著者へのメッセージにもなる。著者が本当に伝えたい内容を表現する、それこそが、編集者の腕の見せどころです」。

内容をじっくり読んで飲みこむ。当り前でありながら、名コピーを生み出す一番の近道のようなのだ。

これで書ける「帯コピー」